三十九夜（1935）

THE 39 STEPS

メディア　映画
ジャンル　サスペンス
製作国　イギリス
色彩　B&W
時間　88分
初公開日　1936/03
公開情報　劇場公開
リバイバル　1996/05［ヘラルド］

【解説】

ヒッチコックが最も敬愛する作家という、Ｊ・バカンの小説（ドラマチックなアイデアでさりげなく語るのが特色で、それは即ち、ヒッチコック・タッチを決定する要素でもある）の映画化。カナダから帰国したばかりの外交官ハネイ（ドーナット）は寄席で記憶術師・Ｍｒ．メモリーのショーを見て、謎の女に救いを求められ自室へ連れ帰るが、彼女は何者かによって殺され、彼は逃亡を余儀なくされる。真犯人（分かっているのは左手の小指が無いことだけ）追及にわずかな手がかりだけを頼りにスコットランドへ列車で向かう彼は、車内検閲の急場を同席した女（キャロル）へのキスで逃れようとするが……。なんとか目的の土地に着き、農家に一夜の宿を求めるが、夕食の席で、彼が新聞に載った逃亡犯と認めた妻と見交わす視線をピューリタンの夫に妙に誤解されて、出ていくことになる（そこで妻に着せられた外套が、その後逃げ込んだ名士の家で意外な活躍をしてくれる）。二転三転あって、ある公会堂の講演会に紛れ込んだハネイは、演者と間違われ、出鱈目のスピーチをぶつ。と、そこへ先の車中の女が。彼女は刑事を呼び、警察署にハネイと共に向かうが、それがニセ刑事で、手錠でつながれた二人は山中へ逃げ出し、そのままの姿で宿屋に戻る。スパイ組織が背後にある事件の全容を知った彼は、辛くもロンドンへ戻り、再びＭｒ．メモリーの寄席へ決定的な答えを求めて赴く。この自らの職業意識に忠実な芸人の口を衝いた言葉に、全てが急速に終結に向かうシークェンスの爽快な直截さは、ヒッチならではの世界。その文体がアメリカ時代に完成されつつある傑作だ。なお、５９年の「三十九階段」は本作のリメイク。

【クレジット】

監督	アルフレッド・ヒッチコック	Alfred Hitchcock
原作	ジョン・バカン	John Buchan
脚本	チャールズ・ベネット	Charles Bennett
	アルマ・レヴィル	Alma Reville
	イアン・ヘイ	Ian Hay
撮影	バーナード・ノールズ	Bernard Knowles
音楽	ルイス・レヴィ	Louis Levy
出演	ロバート・ドーナット	Robert Donat
	マデリーン・キャロル	Madeleine Carroll
	Ｒ・マンハイム	
	ペギー・アシュクロフト	Peggy Ashcroft
	マイルズ・メイルソン	Miles Malleson

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.